

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	相生市立相生小学校
授業者	和田 唯

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

ふるさとの海となかよくなるろう～相生の牡蠣は宝物～

#### 1-2. 学年

3年生

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習

#### 1-4. 単元の概要

今から12年前、相生小学校において地域での体験活動を通してふるさとを愛する児童を育てたいという思いから「ふるさと大すきプロジェクト」が始まった。「ふるさと大好きプロジェクト」は、生活科・総合的な学習を中心に地域の「ひと・もの・こと」の課題を仲間と協働して解決したり、地域に学びを発信したりする活動である。3年生は、総合的な学習の時間に「海の環境」をテーマに相生の海で養殖されている牡蠣や海の浄化に取り組んでいる人たちについて学び、課題を明らかにし、自分たちにできることを考え、実践してきた。今年度は、海洋教育パイオニアスクールからの支援で準備できたスクリーンとプロジェクターを活用して、創立150周年記念式典に合わせた学習発表会の場で、自分たちの学びを保護者や地域の方々、卒業生に伝えることにした。また、ICT機器やアプリを活用して、自分たちの校区だけでなく、他校の児童にも成果の発表を広げることにした。さらに、学んだことを次の学年に対して、引き継ぎ会を設け、成果や課題を共有していく。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 牡蠣の成育調査を通して、貝の育ちには、住みかや食べ物などの海の環境が大きく関わっていることに気づかせたい。
- 海の環境を守ることが、自分たちの環境を守ることにもつながっていることに気づかせ、自分たちにできることを考えさせたい。
- 地域の方々にお世話になりながら、仕事や取組の苦労や努力を知り、郷土を愛する気持ちを育てたい。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ふるさとを誇りに思い、大切にしようとする気持ち。
- 自ら学ぶ楽しさや達成感の獲得。
- 地域の方に支えられて学習できることに対する気づきと感謝の気持ち。
- 自分たちだけで話し合うのではなく、ICTを活用した他校と交流しようとする態度

1-7. 単元の展開（全70時間）

時 数	学習活動・主な内容	①教師の指導 / ②主な評価 ③外部連携 / ④使用教材等
第 一 次 二 時 間	かきまつりの時の写真を見たり、過去の3年生の学習のまとめを読んだりして、牡蠣の養殖が校区の海で盛んに行われていることを知る。そこから、なぜ、相生湾が牡蠣の養殖に適しているのか、これからも牡蠣の養殖が続くために大切なことについて関心を持つ。	①3年生児童が興味を持ち、調べていこうとする意欲を持つように、過去の資料を提示する。 ②知識・技能、主体的に学習に取り組む態度 ④廊下に展示してある学習のまとめ
第 二 次  三 十 八 時 間	相生市役所環境課の人から牡蠣の成長の仕方について学習する。牡蠣の成長には海の中に栄養が必要なこと、海の栄養は、川を通して山からくると、牡蠣にその栄養を吸収させるために、牡蠣棚を時間をかけて移動させる等の知識を得る。	①ワークシートを利用して、新しい気づきをメモさせる。 ②知識・技能、思考・判断・表現 ③相生市役所環境課職員1名 ④ワークシート
	相生漁業協同組合の協力で、牡蠣の種付け体験をする。漁師さんに牡蠣の養殖に必要な工夫や努力について聞き取る。牡蠣の生育には海中に栄養が必要なことや海水をきれいに保つことが大切であることを知る。そのために相生湾自然再生学習会議の人たちが活動していることを知る。	①救命胴衣を身につけさせ、安全面に配慮する。牡蠣の種がついているホタテ貝をロープにつけるなどの体験作業を取り入れ、関心を持たせる。 ②知識・技能、主体的に学習に取り組む態度 ③漁船（牡蠣養殖用）漁師3名 環境課職員1名 ④デジタルカメラ、ワークシート
	実際に相生湾内の汚れについて、調べることにする。相生湾自然再生学習会議の皆さんの協力を得て、葛島（かずらしま：通称おわんじま）に上陸して漂着物を観察、その中に含まれるゴミを袋に詰めて回収した。拾ったシーグラスを使って工作を行い。環境問題への関心を深める。	①たくさんの漂着物を調べたり、ゴミを回収したりすることによって関心を持たせる。 ②知識・技能、主体的に学習に取り組む態度 ③漁船（牡蠣養殖用）漁師3名 環境課職員1名 ④デジタルカメラ、ワークシート
	相生湾自然再生学習会議の人たちが行っているアマモによる海水の浄化に4年生と共に取り組む。そのためにアマモの種を瓶の中で発芽させ、成長させる。大きくなったら3月頃に相生湾に定植する。牡蠣の養殖もアマモの成長にも海の浄化が欠かせないことを知る。	①アマモの働きを学び、自分たちにできることがあることを知らせる。実際に体験させる。 ②知識・技能、主体的に学習に取り組む態度 ③相生湾自然再生学習会議メンバー3名 ④栽培容器、種子、脱脂綿、砂、海水
	相生市漁業協同組合の協力のもと牡蠣の収穫体験に参加する。海の中から引き揚げた牡蠣を見て成長ぶりを確認する。その後、加工工場に行き、どのように製品化したり、出荷したりしているのか学習する。安心・安全な牡蠣が売られたり、家庭やお店で調理されたりしていることを知る、	①救命胴衣を身につけさせ、安全面に配慮する。引き揚げた牡蠣を観察し、成長ぶりを確認する。製品化の行程や出荷先へ関心を持たせる。 ②知識・技能、主体的に学習に取り組む態度 ③漁船2（牡蠣養殖用）漁師6名 環境課職員2名 ④デジタルカメラ、ワークシート

## 2.

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
第二 次	発芽後、少し成長したアマモの苗を相生湾に定植させる。4年生と一緒に竿の先に取り付けた苗を一つ一つ、海に沈めていく。海面からは見えな いが、ダイバーが潜って撮影した写真を見せてもらい、アマモの林ができつつあることを確認する。	①定植後のアマモの働きについて知り、自分たちが伝えていく必要があることを考えさせる。また、体験して感じたことや知ったことを記録させておく。 ②知識・技能、主体的に学習に取り組む態度 ③相生湾自然再生学習会議メンバー3名 ④栽培容器、種子、脱脂綿、砂、海水
第三 次	自分たちが調べてきてわかったことをまとめる。わかったことを、市内にある海に面していない山の学校：矢野小学校の3年生に伝えることにした。1学期に顔合わせと趣旨説明、3学期に成果を伝える。ICT機器を使用してSNSで矢野小とつながり、意見交換を行う。	①自分たちが知ったことを誰に、どのように伝えるか考えさせる。今回は、新たな伝え先を見つけさせる。 ②知識・技能、思考・判断・表現 ③なし ④ワークシート
	自分たちが調べてきたことを、学習発表会で披露する。創立150周年記念事業の一環である記念式典で行うため、他学年の児童や保護者、卒業生や地域の人にも自分たちが調べてわかったことや今後の取組として協力してほしいことを伝えることができる。	①自分たちがまとめたことを誰に、どのように伝えるか考え、脚本を作り、練習させていく。 ②知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度 ③なし ④牡蠣殻をイメージした工作物、プロジェクター、スクリーン、スクリーンに写す背景画、効果音、メッセージ
三十 時 間	1年間学習してきたことをまとめる過程で、海をきれいに保つことが必要不可欠だと学んだ。そのため、海にゴミを投棄しないように呼びかけるポスターを作製した。そのポスターを地域の公民館やお店など人が集まるところに依頼して掲示してもらう。年度末に回収した。	①自分たちが地域の人たちに依頼したいこと（海への不法投棄禁止）をどのように伝えるか考えさせ、取り組ませる。②知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度 ③なし ④地域に掲示するポスター、地図、デジタルカメラ
	生活科から総合的な学習へ移行していく2年生たちに、取り組んできた成果や課題を伝える。さらに活動を通じて知った達成感や学習に協力してくださる地域や関係者の人たちとのつながりの大切さについても知らせて、受け継いでもらう。	①自分たちが下級生に伝えたい事（何を、どのように）をまとめ、発表する準備をさせる。 ②知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度 ③なし ④発表資料（掲示用イラスト、発表原稿）、プロジェクター、スクリーン、デジタルカメラ

## 2 学習活動の実際

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 30 時間中の 2 時間目

### 2-2. 本時の目標

創立150周年記念の学習発表会に向けて、これまでに学習したことをふり返り、伝えるべき内容を精選する。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時の活動をふり返り、本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>2 学習発表会で伝えたいことについて話し合う。            (1) これまでの学習をふり返る。            ・環境課の大角さんに、昔はカブトガニやアカテガニがたくさんいた豊かな海だったと聞いたね。            ・「海の生き物は山に支えてもらっている」という言葉が心に残っているよ。            ・おわん島には、たくさんのゴミがあったね。            ・相生湾自然再生学習会議の松村さんが、「このままだと魚よりゴミの量が多くなる。」と言っていたよ。</p> <p>(2) 伝えるべきことは何か話し合う。            ・豊かだった昔の相生湾の様子と、変わってしまった今の相生湾の様子を伝えたいな。            ・「相生の海守り隊」として、アマモを植えたりポスターを描いたりしたことを知らせたいな。            ・豊かな海が未来までずっと続くように、「相生の海守り隊」への協力を呼びかけたいな。</p> <p>3 より効果的な伝え方について話し合う。            ・実際の様子を知ってもらうために、大きなスクリーンに写真を映してみたいな。            ・劇で伝えると、低学年にも伝わりやすいと思う。            ・学習発表会の様子をビデオに撮って、交流をしている矢野小学校の3年生にも見てもらいたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画表や前時の活動についてまとめた掲示を活用し、児童が自ら目標をもって本時の学習に取り組めるようにする。</li> <li>・写真や掲示、児童の活動記録などの学習の足跡を頼りに、これまでの学習を想起させる。</li> <li>・活動したことの羅列とならないように、児童が相生湾の環境が抱える課題とつながる発言をした際にはすかさず取り上げ、意識を向けさせたい。</li> <li>・次の学習活動で、「伝えるべきことは何か」を児童が選択しやすいように、整理しながら板書する。</li> <li>・児童に「発表時間10分」という条件を知らせ、限られた時間の中で、伝えるべき内容を精選しなければならないことを意識させる。</li> <li>・趣旨からずれている場合は、単元のはじめに児童らで設定した学習テーマを確認させ、何のために活動してきたのかを意識させる。</li> </ul> <p>☆学習テーマや単元目標を意識しながら学習発表会で伝えるべき内容を精選できたか。（児童の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に、学習発表会は体育館のステージで行うことを知らせ、場に合った伝え方を考えさせる。</li> <li>・アイデアが浮かびにくい児童には、友達と話し合う時間を取ったり、昨年度の学習発表会の写真を見せたりして、イメージしやすいようにする。</li> <li>・学習発表会後に予定している、他校との交流会にも</li> </ul>

<p>4 次時の見通しと本時のふり返しをする。</p>	<p>意識が向けられている児童の意見を取り上げ、称賛する。</p> <p>・本時に話し合った内容をもとに、発表原稿を考えることを知らせ、次時への意欲付けを図る。</p>
-----------------------------	--

2-4. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

2-5. 本時の目標

カキの収穫体験を通して気付いた課題について話し合い、今後の活動計画を立てる。

2-6. 本時の展開

<p>主な学習活動 / 反応</p>	<p>教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）</p>
<p>1 前時の活動をふり返し、本時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>・学習計画表や前時の活動についてまとめた掲示を活用し、児童が自ら目標をもって本時の学習に取り組めるようにする。</p>
<p>2 カキの収穫体験を通して気付いたことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種付けの時に、1本のロープに15個しかつかなかったのに、収穫の時にはカキがたくさんついていて驚いたよ。</li> <li>・今年のカキは小さいと漁師さんが言っていたよ。雨が少なかったことが関係しているんだって。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫体験の写真を提示し、活動を想起させる。</li> <li>・既習内容と結び付けながら発言している児童を称賛し、体験したことの羅列にならないようにする。</li> <li>・既習内容についてイメージしにくい児童に対しては、学習の足跡などを活用して共通理解を図る。</li> <li>・環境的な課題に迫る発言に対して、「どういうこと？」などさらに質問を投げかけ、児童の言葉で思いを語らせる。</li> </ul>
<p>3 今後の活動計画について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カキの収穫体験で気付いたことを、リモートで矢野小学校の友だちに伝えたいな。</li> <li>・カキが小さかったことや、山と海のつながりについてもう一度伝えて、海を守る活動に協力してもらえようをお願いしたいな。</li> <li>・海の環境が少しでもよくなるように、アマモを植える活動を下級生にも引き継ぎたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの活動を想起させながら、児童自身に活動計画を立てさせることで、意欲的に活動できるようにする。</li> <li>・学年末であることも意識させ、下級生に引き継ぐべき活動も整理させておく。</li> </ul> <p>☆カキの収穫体験を通して気付いた課題に対して、課題解決につながる活動計画を立てることができたか。（児童の発言）</p>
<p>4 次時の見通しと本時のふり返しをする。</p>	<p>・自分たちで立てた計画に従って、次時から活動していくことを知らせ、次時への意欲付けを図る。</p>

2-7. 単元における位置づけ

単元 30 時間中の 22 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-8. 本時の目標

リモート交流会を開き、海の学校である自分たちが学んできたことを山の学校である矢野小学校の児童に伝え、海と山のつながりについて知らせるとともに、「相生の海守り隊」の仲間として自分にできることを考えてもらう。

2-9. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 前時の活動をふり返り、本時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画表や前時の活動についてまとめた掲示を活用し、児童が自ら目標をもって本時の学習に取り組めるようにする。</li> </ul>
<p>2 矢野小学校とリモート交流会を行う。</p> <p>(1) 学習発表会で披露した劇を見てもらう。</p> <p>(2) 劇で発信した内容に関する○×クイズを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・矢野川の栄養は、相生湾には流れてこない。○か×か。答えは×です。遠く離れている相生湾にも、矢野川の栄養が流れてきます。逆に川を汚してしまうと、それが海へと流れ着くのです。このように、みなさんとぼくたちはつながっています。</li> </ul> <p>(3) 「相生の海守り隊」として、協力することをムーブノートに提出してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミを捨てないようにします。</li> <li>・矢野川をきれいにします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期と同様に、事前に矢野小学校の担当者と打ち合わせを行い、Meet を使ってリモートでの交流会の場を設定しておく。その際、スムーズに会が行えるよう ICT 支援員を活用し、ICT 機器の準備などを丁寧に行う。</li> <li>・事前に児童用タブレットのムーブノートを使って、○×クイズを作らせ、それをスクリーンに映すことで、矢野小学校の児童の答えを即時に確認しながらクイズを進められるようにする。</li> <li>☆クイズの解説を通して、山と海とのつながりを知らせることができたか。(児童の発言)</li> <li>・矢野小学校の児童にも「相生の海守り隊」の一員として、相生湾の環境を守る取り組みについて、自分事として考えてもらえるように、一人一人に自分の言葉で記入し、ムーブノートに提出してもらう。</li> </ul>
<p>3 次時の見通しと本時のふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次は矢野小学校の発表を聞かせてもらうことを伝え、次時への意欲付けを図る。</li> </ul>

### 3. 今回の活動の自己評価

○ふるさとを誇りに思い、大切にしようとする気持ちが育った。

相生湾の自然の素晴らしさを肌で感じ、海に抱かれたまち「相生」に生まれたことを誇りに思う姿が見られた。また、牡蠣の養殖や自然再生に関わる方々と年間を通して何度も活動を共にし、繰り返し思いを聞かせていただく中で、自分自身もこのふるさとの自然を守る一員であることを自覚し、ふるさとを大切にしようとする気持ちが育った。

○自ら学ぶ楽しさや、達成感を味わった。

初めての総合的な学習として、本単元「ふるさとの海となかよくなるう」に取り組んだ。児童が主体となってテーマや学習課題を設定することで、自ら学ぶ楽しさを味わった。また、創立150周年という節目の年であった今年度は、学習発表会を通して多くの方々に、自分たちの学びを発信することができ、達成感を味わうことができた。

○他校との交流により、学びを深めることができた。

海の学校である本校と、山の学校である矢野小学校での交流を1年通して行った。2名しかいない本校の3年生児童は、リモートではあったが同学年の児童と交流し多様な考えに触れ、学びを深めるよい機会となった。今年度は、総合的な学習が中心であったが、今後は他教科の学びも交流したいと意欲を高めている。

### 4. 今後の課題

○牡蠣の養殖や海の環境改善に取り組む人たちとの交流や海岸の清掃・アマモの育成をとおして、児童は相生の海について興味をもち、楽しく学ぶことができた。

新たな課題として、過去に定植したアマモについて、ボランティアの方から順調に成長している様子を聞くことができているが、児童自らがアマモの成長する様子を具体的に観察することができれば、より実感を伴った環境活動につながっていくと考える。また、本校の児童数が年々減少しているため、海の浄化活動についての協力の体制の維持・拡大が課題である。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

○児童が特定されないように、児童が写っている写真の取り扱いについては十分注意願いたい。

○関係者（学校）への直接の連絡はご遠慮願いたい。